

自治体における AI活用・導入ガイドブック

<別冊付録> 先行団体における生成AI導入事例集

令和6年7月

総務省

情報流通行政局 地域通信振興課

自治行政局 行政経営支援室

目 次

生成AI導入事例の紹介

- 生成AI導入済み団体のうち、特に導入・活用に向けて取り組んでいる自治体を取り上げ、導入経緯や背景、活用促進に向けた取組を紹介いたします。

先行団体における生成AI導入事例集

1. サービスデザインの検討における生成AIの活用【神戸市】	1
2. 「生成AI開国の地」の好事例・ノウハウの横展開【横須賀市】	2
3. LGWAN環境下で利用できる生成AI開発と好事例の横展開【都城市】	3
4. 生成AIとRPAを組み合わせた業務効率化の追求【別府市】	4
5. 活用促進に向けた自主的な勉強会の拡大【志木市】	5
6. SNSへの投稿文章生成をはじめとした各種業務への生成AI活用【湖西市】	6
7. ボトムアップによる迅速な導入検討・生成AI利用促進の新たな取組【当別町】	7
8. 小規模自治体における緩やかな生成AI活用促進【西栗倉村】	8

参考

用語解説、生成AIに関する参考URL	9
--------------------	---

サービスデザインの検討における生成AIの活用（神戸市）



事例のポイント

- 広報紙作成において、生成AIを活用してペルソナ（広報紙を読む人物像）とカスタマージャーニーマップを出力することでユーザー目線の企画立案を実施している。
- 生成AI活用にあたって、安全性のリスクや市民の不安を考慮し早期に条例改正を行っている。

● 生成AIの概要：

- ・2023年度初めに「Azure OpenAI Service」の独自環境を構築し、利用する職員を限定して試行利用を実施した。
- ・その後、2024年2月1日から「Microsoft Copilot」の全庁利用を開始した。

- **導入に至った経緯：** デジタル戦略部でICTツールを活用して業務改善を進めている中でChatGPTが登場し、市長からChatGPTを活用するよう指示があったため導入の検討を進めた。

- **生成AIの活用内容：** 広報紙の作成の際に、生成AIによってペルソナ分析やカスタマージャーニーマップ作成を行っている。この取組はサービスデザインに興味を持つ職員の発案によるもので、新型コロナワクチン接種に関する広報活動のサービスデザイン検討の経験から実施した。

- **生成AI活用促進の取組：** 本格導入に際して、生成AIを利用したことがない職員が大半を占めており、利用に戸惑うことが容易に想像できた。そのため、試行利用結果から事例を提示することで自身の業務での利用をイメージしてもらえるようプロンプト事例集を提供した。

プロンプト事例集URL：https://www.city.kobe.lg.jp/documents/63928/jireishu_1.pdf

- **導入による業務改善効果：** 試行利用では、作業時間短縮による業務効率の向上および企画立案時の企画内容充実や各種事務作業の手戻り減少など業務の質が向上した。本格利用後は、全職員に対する汎用的な効果を検証中である。

- **導入における課題：** 個人情報の取扱いに対する市民の不安を解消することが課題であった。それらリスクや課題に対し、条例改正等の利用上のルール整理を早い段階で行うことで解決した。

● 今後の生成AI利用の展望：

- ・普及が進んだ後の定着を見据え、業務効率化に寄与するようなモデル事例を見出す。
- ・全職員が生成AIを利用できる状況となったため、まずは試して慣れてもらう。先行自治体の動きを参考にしながら、多くの職員に活用してもらえるよう仕掛けを行う。

神戸市広報紙作成イメージ

ベルソナを利用した 分かりやすい広報紙の作成	
文章生成 文章要約 翻訳 アイデア出し	
プログラミング 情報検索 その他	
活用場面 市民にとって分かりやすい広報紙をつくる。	手順 以下のとおり、何度かChatGPTとのやり取りを経て、広報紙の文面案を出力する。 STEP1：ベルソナ（※仮定の市民像）を出力 STEP2：カスタマージャーニーマップ（※ベルソナの行動歴）を出力 STEP3：ベルソナが●●を読んだときの雑感を出力 STEP4：○○の文面案を出力
プロンプトの紹介 ChatGPTで、ベルソナ（広報紙を読む市民像）を複数作成。	
得られる効果 様々な市民像を出力することにより、あらゆる層の人にとって分かりやすく文章をつくることができる。	
注意するポイント 前提条件を教えないと、浅いベルソナ結果になってしまう。これまでのユーザーアンケートや統計等から想定されるメインのターゲット層を、プロンプトに記述してあげる。	

出所「生成AIによる市役所の業務効率化 -プロンプト事例集-」（神戸市、2024年）

スケジュール

- 2023年 4月：導入検討の開始
- 2023年 5月：市長を含め庁内向けのデモンストレーション実施（並行して、条例改正・独自環境構築を実施）
- 2023年 6月～9月：試行利用の実施・利用ガイドラインの策定
- 2024年 2月：本格利用開始

「生成AI開国の地」の好事例・ノウハウの横展開 (横須賀市)

事例のポイント

- 庁内職員を対象に「ChatGPT活用コンテスト」を開催し、生成AIの利用スキル向上や好事例の共有を図っている。
- 2024年1月に2日間にわたって全国の自治体・企業向けに実施した「横須賀生成AI合宿」や、全国22自治体が参加するポータルサイト「自治体AI活用マガジン」の活動を通して、全国の自治体へノウハウを共有している。

- **生成AIの概要**：全庁的に「GPT-4o」を利用しており、LoGoチャットを通じてAPI連携を行っている。
- **導入に至った経緯**：市長からデジタル・ガバメント推進室への相談をきっかけに検討チームを発足し、実証実験を開始。実証実験の結果から費用対効果が高いことが見込まれたため、本格導入に切替。情報系に強い職員が生成AIの担当として活躍したことで早期に導入を進めることができた。
- **生成AIの活用内容**：主に文章作成や企画立案に利用しているが、「エクセル関数の作成」や「庁内のシステムを連携させるためのソースコードの作成」などにも利用している。
- **生成AI活用促進の取組**：
 - ・出来る限り多くの職員に利用してもらいたいと考え、職員の利用を進めるためChatGPTを広く知ってもらうよう庁内報の作成・庁内PRを行った。
 - ・「ChatGPT活用コンテスト」を開催し、好事例の横展開を行っている。

ChatGPT活用コンテストURL：<https://www.youtube.com/watch?v=Zgy42A45lxk>

- **導入による業務改善効果**：利用人数や1件あたりの削減効果を基にした算出では年間22,700時間の改善効果を見込んでいる。生成AI活用による業務効率化を実感しており、高い費用対効果が得られている。
- **導入における課題**：セキュリティの担保が課題であったが、2023年3月にOpenAI社の規約が変更となり、API経由で入力された情報は学習に使われない旨が明記されたため課題が解消された。
- **今後の生成AI利用の展望**：
 - ・積極的に生成AIを活用してもらいたいため、庁内報で引き続き周知を図る。
 - ・AI戦略アドバイザーによる職員向け研修実施に加え、庁内で好事例や効率的な活用方法を横展開し職員のスキルアップにつなげる。
 - ・生成AI利用促進を機に既存の業務フローを見直しなど改革マインドを持つ職員の育成や組織風土の醸成を目指す。
 - ・note株式会社と共に運営しているポータルサイト「自治体AI活用マガジン」でノウハウを共有し、全国の地方自治体における生成AI活用促進に寄与する。

※自治体AI活用マガジンURL：<https://govgov.ai/>

横須賀市自治体AI活用マガジンイメージ



出所「横須賀市生成AI推進チーム記事まとめ」(横須賀市、2023年)

スケジュール

- 2023年 4月：実証実験の開始
(2023年4月18日にプレスリリース、2023年4月20日に市長が記者会見を実施)
- 2023年 6月：実証実験の成果を発表するとともに本格実装を開始
- 2023年 8月：「自治体AI活用マガジン」の運用開始
- 2023年 9月：相談業務への生成系AI活用に関する実証を開始

LGWAN環境下で利用できる生成AI開発と 好事例の横展開（都城市）



事例のポイント

- LGWAN環境で利用できる生成AIを求め事業者と共創し生成AI利用サービスを開発
- 生成AI利用に関する横展開を実施するとともに、優れたプロンプト例を登録し自治体間で利用を促進

- **生成AIの概要**：LGWAN環境で利用するために企業と共創し開発した「自治体AI zevo」を利用している。
- **導入に至った経緯**：市が日々行う業務は書類作成や地域イベントでの挨拶文作成など、生成AIとの親和性が高い業務が多いことも踏まえ活用を検討してきた。事業者と共創しLGWAN経由で接続可能な生成AI利用サービスを開発し全庁的に利用を開始した。
- **生成AIの活用内容**：文章の作成・校正・要約や政策案やキャッチフレーズなどのアイデア出し、Excel関数生成やマクロ作成など幅広い業務に活用している。

- **生成AI活用促進の取組**：
 - ・事業者と協力することで一か月間の実証期間中「zevo」を無料で利用可能とした。これにより令和6年6月時点で300団体が実証を行うなど、幅広い自治体へ横展開される結果となった。
 - ・AIに関する好事例を自治体間で共有するため、「zevo」にプロンプト登録機能を搭載し汎用的に利用可能な優れたプロンプト例を登録して引き出せるようにしている。

登録されたプロンプト例



（出所）都城市提供資料

- **導入による業務改善効果**：文章作成に生成AIを活用することで文書作成業務に要する時間を大幅に削減できている。実際の利用状況から推計したところ、全庁的に年間約1,800時間の削減効果が見込まれる結果となった。
- **導入における課題**：生成AIが急速に社会に浸透したため予算を確保することが課題であった。都城市では民間企業から提案を受けDXを推進する「DXチャレンジプロジェクト」を実施しており、この制度を活用することで実証事業を実施し、効果を確認することで導入に至った。
- **今後の生成AI利用の展望**：
 - ・マニュアルやQ&Aを読み込んだ都城市独自AIの実証や、BIツールと生成AIの連携に関する実証を進めており、単純な生成AI利用のみではなく活用分野を広げて取組を進めている。
 - ・認知症予防など健康増進・生涯学習をサポートする生成AIを活用した対話サービスの提供を行う。
 - ・新しい生成AIが登場した際やバージョンアップの際に適宜最適な生成AIを利用できるよう、事業者と協力して準備・検証を進めていく。

スケジュール

- 2023年 2月 : 導入検討の開始
- 2023年 5月 : シフトプラス株式会社と「zevo」の共同開発を開始
- 2023年 7月 : 本格運用開始
- 2023年 10月 : 自治体独自AI実証開始

生成AIとRPAを組み合わせた業務効率化の追求（別府市）



事例のポイント

- 生成AIとRPAを組み合わせることで更なる業務効率化を目指している。
- ガイドラインとして利用上の注意点を必要最低限にすることで遵守率を高めるとともに利用のハードルを軽減している。
- 産官学連携による生成AIの活用検討を進めている。

- **生成AIの概要**：LGWANから利用でき、webベースの製品である「自治体AI zevo」を実証実験段階で選定し本格運用でも利用している。入力した情報が生成AIの学習データとならない形態で利用している。
- **導入に至った経緯**：令和5年の4月頃から職員有志でChatGPTの勉強会を開催するなど活用に向けた機運が高まっていた。他自治体で生成AI活用の取組みが進んでいたため、別府市から事業者へ打診し実証を開始した。令和5年8月に実証運用の説明会を実施し、8月上旬から9月上旬にかけて実証運用第1弾を開始。令和5年9月下旬から10月下旬にかけて実証運用第2弾を実施し、令和5年11月から本格運用を開始した。
- **生成AIの活用内容**：文章案の作成支援やアイデア出しなど幅広く活用している。また生成AIとRPAを組み合わせ、市民からのご意見メールを自動的に要約・分類する実証を行い、実際の業務に活用している。また産官学連携で別府市固有のデータを使い正確な情報を回答する生成AI開発の取組を進めている。
- **生成AI活用促進の取組**：利用上の注意点が多いと利用する側の遵守が難しく利用促進のハードルになると考え、必要最低限となる3点の注意点（※）のみを周知した。また本格運用開始直後に庁内の広報「デジタルファーストニュース」で周知を実施したほか、情報政策担当課が「いつでもお気軽相談会」や「プロンプト勉強会」を開催することで利用を促進している。

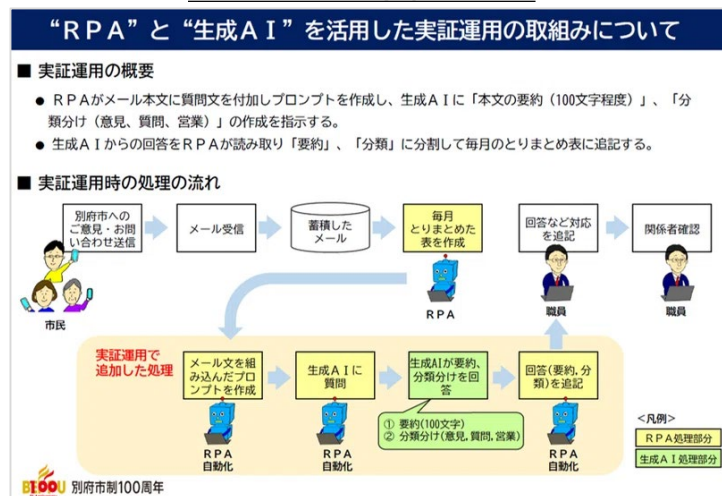
（※3点の注意点参照：<https://www.city.beppu.oita.jp/doc/sisei/df/henkaku/ai/matome1.pdf>）

- **導入による業務改善効果**：実証実験のアンケート結果では「効率は大幅に上がると思う」「効率は上がると思う」の回答割合が87%であった。実際に業務活用したところ、約2,600件の市民アンケートの自由記述欄に記入された内容を生成AIで分類する作業において、職員一人だと2週間程度かかる作業が生成AIとRPAの活用により2日間程度に短縮できたと実感している。

- **導入における課題**：生成AI活用の課題はハルシネーション（事実に基づかないことを回答してしまう）と認識しており、生成AIの回答内容は必ず確認するよう利用者に求めている。課題解決に向けて産官学で連携し、別府市固有のデータを使い、正確な情報を回答する生成AI開発に取り組んでいる。

- **今後の生成AI利用の展望**：
 - ・生成AI利用の目的は業務効率化であるため、勉強会を開催し効果的な利用方法の周知や利用者スキル向上の取り組んでいく。
 - ・試験的な取組として実施した生成AIとRPAの組み合わせに関して、今後活用範囲の拡大を検討していく。

生成AI×RPAの仕組みの概要



出所)「生成AI」×「RPA」を試験的に使ってみました【BEPPU×AI vol.2】
（自治体AI活用マガジン、2024年）

(<https://beppu-city.note.jp/n/n5013e566347f>)

スケジュール

- 2023年 4月：導入検討の開始
- 2023年 8月：庁内の利用説明会を実施、実証運用第1弾を開始
- 2023年 9月：庁内の利用説明会を実施、実証運用第2弾を開始
- 2023年 11月：本格運用を開始

活用促進に向けた自主的な勉強会の拡大（志木市）



事例のポイント

- 生成AI利用拡大に向けて工夫を凝らした自主的な勉強会を開催している。
- 多くの職員が当たり前に生成AIを活用するよう周知・促進を図り、全庁的な業務効率化につなげる。
- 他自治体への情報発信や情報提供など、横展開を促進する。

● 生成AIの利用状況：

複数の生成AI利用サービスでトライアルを実施し、LGWAN上のみで利用可能である「自治体AI zevo」を選定し本格運用を開始している。

● 導入に至った経緯・背景：

2023年3月頃から庁内で生成AI利用の機運が高まり、4月末に生成AI利用に関する通知を庁内全体に発出した。2023年7月からLGWAN環境で利用可能なツールでトライアルを開始。2024年4月に生成AI利用に関するガイドラインを策定し、5月から本格運用を開始した。

● 生成AIの活用内容：

文章案の作成や要約・校正が最も多く利用されており、その他にも情報検索・調査やアイデア出しなど幅広く業務に活用している。

● 生成AI活用促進の取組：

トライアル開始後に利用者が思うように増えず、周知のためChatGPTに関する自主勉強会を実施した。勉強会では他自治体の資料を参考に志木市に合わせて内容を修正したほか、楽しんで興味を持って取り組んでもらえるよう、グループワークの実施内容を工夫している。また生成AIの活用に関する庁内広報として「ChatGPTかわら版」を発行し周知を図っている。

生成AI勉強会の様子



出所）「ジチタイワークスWEB（<https://jichitai.works/article/details/2303>）」

● 導入による業務改善効果：

トライアル実施についてアンケート調査を実施したところ、トライアル参加者の84%が「業務効率が向上する」と回答している。アイデア出しなどは1日かかるようなものが1時間未満でできあがるなどの意見もあり、時間短縮効果があると実感している。

● 導入における課題：

- ・デジタル推進課が把握不可能なところで職員が業務に活用する懸念があった。個人情報漏洩防止の観点でまず4点のルール（※）を定めて周知し、その後本格運用の際にはガイドラインを策定した。
- ・現在はLGWAN上のみでしか利用できないサービスを利用しているが、今後インターネット経由で利用することになった際にはガイドラインの修正やセキュリティ対策の検討が必要となる。

（※4点のルール参照：<https://jichitai.works/article/details/2303>）

● 今後の生成AI利用の展望：

- ・これまでは時間外の自主的な勉強会開催により周知・利用促進の取組を進めてきたが、今後は勤務時間内の開催など研修の充実を図る。
- ・回答の精度を高めるため生成AIとの「壁打ち」を推奨するなど、生成AIとの対話方法に関するテクニックの共有を行い、利用方法のレベルアップを図る。

スケジュール

- 2023年 4月：利用に関して全庁的にルールを周知
- 2023年 7月：トライアル開始
- 2024年 4月：ガイドライン策定
- 2024年 5月：本格運用開始

SNSへの投稿文章生成をはじめとした 各種業務への生成AI活用（湖西市）



事例のポイント

- 用途・機能別に複数の生成AI製品を導入し、活用している。
- 「SNSへの投稿文章生成」や「新規イベント名提案」への生成AI活用をはじめ、「システム調達仕様書案作成」や「水道スマートメーターデータ取得状況確認作業の自動化」等多くの業務の作業経費及び時間を削減している。
- 困りごとや新しい取組に対するマインドを共有することで、職員の生成AI活用の機運醸成を図っている。

- **生成AIの概要**：用途・機能別に次の4製品を導入している。
 - ①LoGoAIアシスタント（職員間チャットツールからのプロンプト入力、チャットツール経由の回答）
 - ②ChatGPT有償版③プロキユアテック（システム要求仕様書作成ツール）
 - ④サニタイザーAIゲートウェイ（LGWAN経由ChatGPT専用GW）
- **導入に至った経緯**：職員が生成AIに注目しボトムアップで導入を進めた。生成AIが世間で話題になっていたことに加え、上層部が出席する会議体でDX推進アドバイザーから生成AIの業務活用を説明していたこともあり、上層部の理解が得られて導入を円滑に進めることができた。
- **生成AIの活用内容**：SNSへの投稿文章生成を皮切りに、システム調達仕様書の文案生成の他、コード生成に活用している。コード生成はこれまでプログラミング経験のない職員が実施したもので、具体的には、水道スマートメーターデータ取得エラー時の再送信を自動化するコードを生成AIで出力することで、正確な送信状況を自動で確認する仕組みを確立した。
- **生成AI活用促進の取組**：
 - ・DXを推進する部門にて各部署にヒアリングを行い、困りごとを気軽に共有できる雰囲気作りを行っている。
 - ・失敗を恐れないう上層部から職員へ伝えることで、職員が新しい取組にチャレンジする機運醸成を図っているほか、システム導入プロセスの定型化や全職員を対象としたITリテラシー向上により、特別な職員がいなくても生成AI活用やDXを推進できるような組織作りに努めている。
- **導入による業務改善効果**：
 - ・2023年7月から2024年2月までの利用件数と削減効果による算出では800時間程度削減できた。
 - ・水道スマートメーターの事例では、1年間で約66時間の削減効果があった。加えて、職員が手動で確認する必要がなくなったため、作業負担の軽減とデータ取得の正確性向上を実現した。

湖西市SNS投稿文章生成イメージ

Prompt	Response
次の文字列をtwitterっぽく書いて。 絵文字も入れて。 湖西市民限定で、最大5200円分のキャッシュレスポイントをプレゼントする「行かない」市役所チャレンジキャンペーンを実施中！詳しくはサイトをチェック ☒ Twitterでの告知文に使用 湖西市役所【公式】@kosacity 2月9日 🎉🎉「行かない」市役所チャレンジキャンペーン事務局からのお知らせ🎉 🎁早期に事務員の200ポイントの対価者が3000人🎁5000人に達🎁キャンペーンについて詳しくはサイトをチェック👉bit.ly/03qps6 #湖西市	🌸 湖西市民の皆様、ご注目ください 🎉 ただいま「行かない」市役所チャレンジキャンペーンを実施中！キャッシュレスポイント最大🎁5200円分🎁をプレゼント🎁しています！この機会をお見逃しなく！詳細は当サイトをチェックしてくださいね！#湖西市 #キャッシュレスポイント #市役所チャレンジキャンペーン

出所）「湖西市のChatGPT活用事例」（湖西市、2023年）

スケジュール

- 2023年 2月：SNSへの投稿文章生成開始
- 2023年 4月：新規イベント名の提案に活用
- 2023年 6月：LoGoAIアシスタント利用について庁内合意
- 2023年 7月：ガイドライン整備、LoGoAIアシスタント利用開始
- 2024年 1月：ChatGPT有償版(インターネット系)利用開始
- 2024年 5月：ChatGPT有償版(LGWAN系)※利用開始 ※④サニタイザーAIゲートウェイ

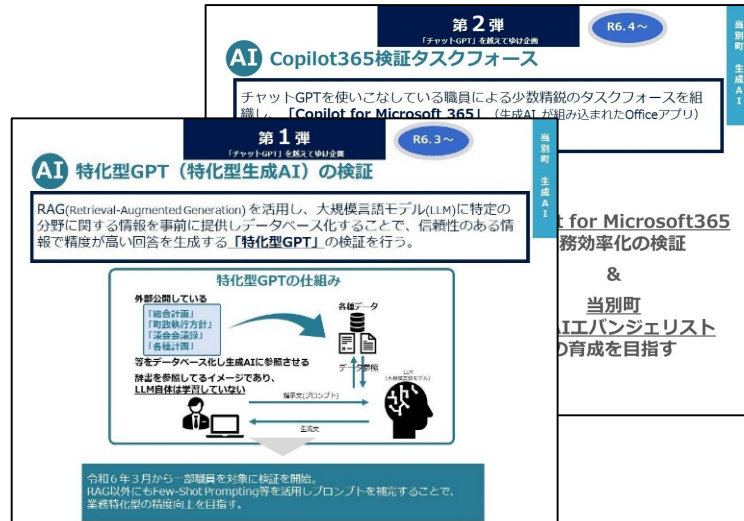
ボトムアップによる迅速な導入検討・生成AI利用促進の新たな取組（当別町）



事例のポイント

- ChatGPT公開から約1か月後、職員が主体となりボトムアップで導入検討を迅速に開始した。
- 実証中に「職員説明会」・「利活用研修会」・「週刊マガジン創刊」・「プロンプト共有」など、職員の機運醸成施策に取り組んでいる。
- さらなる生成AI活用の新たな取組として「チャットGPTを越えてゆけ企画※」を企画中。
※第1弾：特化型GPTの検証 / 第2弾：Copilot365検証タスクフォース
- **生成AIの概要**：既に活用していたビジネスチャット上で安全にChatGPTを利用できる「LoGoAIアシスタントbot版」を導入した。
- **導入に至った経緯**：業務効率化を目的としてDXを推進していた中でChatGPTが公開され、早急にボトムアップで導入を進めた。導入に対する首長・議員の反応は概ね良好であった。首長・議員は技術面のリスクを懸念していたが、安全な環境で利用できることを説明したことで円滑に進めることができた。迅速に取組めた要因として、担当職員が熱意をもって推進したことも挙げられる。
- **生成AIの活用内容**：「AI議事録＋ChatGPT」による各種議事録の要約や広報などの文書作成等、分野を問わず幅広く活用している。
- **生成AI活用促進の取組**：「チャットGPTを越えてゆけ企画」と題して、新たに2つの取組を実施する。
①大規模言語モデルに当別町の総合計画などの公開情報を参照させることで回答精度の向上を図る。
②有効に活用している人材を選抜したタスクフォースを設置し「Copilot for Microsoft 365」の検証を行うとともに、エバンジェリスト（伝道師）として事例を波及させる。
- **導入による業務改善効果**：
・導入前は議事録作成に2～3時間要していたが、導入後は30分ほどで済むようになったと実感している。庁内で一定の利用数があり議事録作成において業務効率化が図られた。
・ChatGPT実証期間中の庁内アンケートの結果、継続利用の意向が8割以上、生成AIへの期待は9割以上と高い状況となった。
- **導入における課題**：生成AIを全庁的に展開しているものの、積極的に利用している職員とそうでない職員に二極化していることが課題である。利用率向上のアプローチとして、説明会の実施など有効事例紹介の発信機会を設け、上手く活用できていない職員向けに継続して機運醸成施策を展開し解決を目指している。
- **今後の生成AI利用の展望**：ChatGPTだけに囚われず、生成AIの急速な変化に柔軟に対応していくため、生成AI全般の研究・検討を継続して実施。効率化し空いた時間を住民との対話や新たな施策の挑戦などに活用し、住民サービス向上を最終目標として取組を進める。

当別町「チャットGPTを越えてゆけ企画」イメージ



出所）「チャットGPTを越えてゆけ企画」（当別町、2024年）

スケジュール

- 2022年12月：導入検討の開始
- 2023年 5月：職員向け生成AI勉強会の開催
- 2023年 6月：当別町生成AI利用ガイドラインの作成
- 2023年 7月～9月：ChatGPTの実証実験の実施
(職員説明会・利活用研修会・週刊マガジン創刊・プロンプト共有に最も注力)
- 2023年10月：本格導入
- 2024年 3月：「チャットGPTを越えてゆけ企画」の取組開始

小規模自治体における緩やかな生成AI活用促進（西栗倉村）



事例のポイント

- 職員の業務内容の特徴を掴んだ上で、業務の効率化が無理なく実現するよう、生成AIで解決したい課題を定め、繁忙期を避けて勉強会を開催するなど緩やかに利用を促進している。
- 有料サービスはできる限り利用しない一方で職員の基礎的なリテラシーの向上に継続的に取り組んでいる。

● 生成AIの利用状況：

2023年より、「LoGo AIアシスタントbot版」のトライアル利用をはじめとして、GPT-4相当の生成AIを無料で利用できるサービスを選んで、日常業務を中心に全庁で利用している。

● 導入に至った経緯・背景：

2023年7月、デジタル利活用推進を担当する職員が生成AI活用を提案して以降、新技術を利用したサービスの活用に前向きな若手職員を中心に、継続的にサービスを選定し利用を進めている。

● 生成AIの活用内容：

資料や文書の作成支援や要約などに活用しているほか、「LoGoフォーム」をカスタマイズするためのJavaScriptのコードや、村内調査の結果をグラフ化するためのPythonコード作成にも活用している。

● 生成AI活用促進の取組：

・総務省によるChatGPT等の生成AIの業務利用に関する事務連絡を受け、利用方法や成果物の評価など、庁内の実状に合った独自のガイドラインを情報政策担当者により作成した。

・生成AIに関する体系的な勉強会を開催した際には、半数以上の職員や公立中学校の校長などが参加した。勉強会ではプロンプトのテンプレートを配布するなどし、それ以降も継続的な利用が確認されている。

生成AI勉強会の様子



西栗倉村役場にて 2024年2月撮影

● 導入による業務改善効果：

画像の取得や、JavaScriptやPythonなどのコード作成作業においては、検索エンジンを使用するよりも作業時間を短縮する効果がある他、議事録などの長文の要約が容易にできるなど、複数の作業において職員の作業効率の向上に寄与している。

● 導入における課題：

職員人数が比較的少ない小規模自治体では、職員あたりの業務の種類が多いため、業務ごとにシステム化して個別に作業時間を圧縮するようなアプローチでは、職員単位の作業効率の向上には繋がりがづらいなど、大規模自治体とは異なる特徴がある。西栗倉村では、繁忙期を避けて生成AIに関する勉強会を開催したり、「Microsoft Excel」の一般的な操作についてリテラシーを向上する取り組みも併せて行うなど、生成AIの利用を強制しないかたちでの緩やかな導入促進を図っている。

● 今後の生成AI利用の展望：

・生成AIはプロンプトによって得られる出力の精度が異なるため、生成AIの利用には職員の基礎的なリテラシーの向上が必要である。その上で、作業時間を圧縮できるようプロンプトのテンプレートの充実や、新しい技術やサービスの登場にも対応できるよう継続的な開催を検討している。

・自治体職員自身が生成AIを利用しなくとも、民間企業などとの協力時に、生成AIの成果物を職員が評価するケースが今後増加するものと想定されるため、すべての職員が生成AIの利用を他人事とせず、リテラシーの向上や情報の収集に継続的に取り組むこととしている。

スケジュール

- 2023年 6月：生成AIガイドライン作成開始（8月公開）
- 2023年 7月：「LoGo AIアシスタント（bot版）」のトライアル利用開始（～9月）
- 2024年 2月：生成AIに関する庁内勉強会の開催

【参考】用語解説

用語	用語解説
API	アプリケーションとアプリケーションの連携を可能とするインターフェースのことで、異なるアプリケーション間で機能やデータを相互に利用するための規約を定義したもの。
生成AI	学習データを基にして様々なコンテンツを生成することが可能なAI。文章を生成するほか、画像や音声、動画等、多岐にわたるデジタルデータを生成することが可能。
ハルシネーション	人工知能が事実に基づかない情報を生成する現象のことで、学習データとは異なる内容の回答や学習データに存在しない内容を回答として出力することを指す。
プロンプト	ユーザーが生成AIに対して入力する質問文や指示文のことで、生成AIに何を生成すべきかの方向性を定める情報を指す。

【参考】生成AIに関する参考URL

	URL
AI 事業者ガイドライン (総務省・経済産業省)	https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/ai_network/02ryutsu20_04000019.html
生成AIはじめての一步 ～生成AIの入門的な使い方と注意点～ (総務省)	https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/generativeai/
AI利活用ハンドブック ～生成AI編～ (消費者庁)	https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/ai_handbook

**自治体におけるAI活用・導入ガイドブック
<別冊付録>**

先行団体における生成AI導入事例集

総務省
情報流通行政局 地域通信振興課
自治行政局 行政経営支援室

〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2
(中央合同庁舎第2号館)
03-5253-5111 (代表)